

1.はじめに

本稿は言語行動の中の「誘い」に注目し、中国語母語日本語学習者・中国語母語話者・日本語母語話者の誘い会話での会話展開と発話表現について対照分析を行う。様々な母語を持つ日本語学習者の誘い会話分析や、日中の誘い会話分析は今までに数多く行われているが(ザトラウスキー 1993、筒井 2002、長谷川 2002、鈴木 2003、高澤 2004、武田 2006、黄 2011、黄 2014、中井 2017) 中国語母語日本語学習者と日本語母語話者、中国語母語話者同士、日本語母語話者同士の誘い会話の対照研究は未だ行われていない。

母語話者同士会話の異なる言語の対照研究を行うことは、筒井(2012:323)で「言語によってある話題に用いられる連鎖組織が異なるならば、言語教育において、連鎖組織を意識した教育を行うことが必要」となり、「異文化理解を深める上でも、連鎖組織を深める上でも、連鎖組織の対照研究を行い、言語体系だけでなく、その背景にある文化社会に関する規範を明らかにしていくことが重要である」と述べられているように、言語教育、異文化理解において必要な研究である。また、母語話者同士会話の比較だけでなく、「接触場面会話」と「母語話者同士会話」を比較することは、日本語母語話者と日本語学習者の違い、母語が学習者に与える影響などを理解することができ、必要な研究であると考えられる。

「誘い」は相手と行動を共にしようとする行為であり、良好な人間関係の構築と関わりのある行為である。しかし、学習者が良好な人間関係を築こうとして誘いを行ったにも関わらず、誘いの会話展開方法や発話表現によっては、母語話者に誤解を与え対人関係に支障をきたす可能性がある。例えば、山岡ほか(2010: 214)は以下のように学習者の「誘い」の誤用例を挙げている。

(1) 「来週スキーに行くんですが、鈴木さんも一緒に行きたいですか？」

山岡ほか(2010:215)は(1)の例を用いて「勧誘において、相手の欲求を直接問いかけることは好ましいことではない。」と指摘している。また、「統語論的・意味論的に正しい文を産出できる日本語学習者であっても、対人関係に支障をきたしかねない発話を行う危険性がある」(山岡ほか 2010:216)と述べられており、誘い会話におい

ても日本語学習者の発話表現によっては、対人関係に支障をきたす可能性があることが窺われる。このように、誘い会話において良好な関係を保ちながら誘いを行うには、どのような会話展開や発話表現を用いることができるのかを明らかにし、それを日本語教師や日本語学習者が理解することは、学習者にとって有益なことであると考えられる。また、日本語教育で誘い会話を指導する際に、学習者が特に注意が必要な点は何かを知ることができると思う。

上記に述べた点を踏まえて、本稿研究目的を以下二点とする。一つ目は、中国語母語日本語学習者・中国語母語話者・日本語母語話者の誘い会話における会話展開と発話表現の特徴、その特徴の共通点・相違点を明らかにすることである。二つ目は、母語が学習者に与えている影響や、中国語母語日本語学習者の日本語誘い会話学習の注意点を考察することで、中国語母語日本語学習者が円滑及び良好なコミュニケーションを行える手助けとなるとともに、日本語教育に提言を示すことである。

本稿では、まず誘い会話についての先行研究を概観し、次に本稿の研究課題と研究方法について述べる。続いて、研究課題の分析結果を示すとともに、結果についての考察を述べる。最後に、分析結果と考察に基づき本稿のまとめと今後の課題を示す。

2.先行研究

誘いの日本語会話分析の代表的研究とされるのはザトラウスキー（1993）である。ザトラウスキーは「話段」や「発話機能」の分析単位を用いて、日本語の電話での誘い会話より、日本語母語話者同士の誘い会話の構造分析を行った。また、日本語誘い会話構造の研究として筒井（2002）がある。筒井は誘い会話の構造は単純なものであれば「勧誘¹」のみで成り立ち、複雑なものであれば「勧誘」＋「相談」という会話構造になると述べている。単純な会話構造を取るのは「その場で実行される勧誘」であり、複雑な会話構造を取りやすいものは「後で行うような行為への勧誘」の会話であるとしている。

加えて、鈴木（2003）は筒井（2002）が提起した誘い会話構造を踏まえたうえで、会話構造を分析する際には①発話②談話③言語行動の点から分析すべきであると述

¹本稿の「誘い」と同義である。

べ、「その場で実行される勧誘²」「その場で実行されない勧誘（予め予定が決まっている勧誘）」「その場で実行されない勧誘（詳細は相談して決める勧誘）」について上記3つのレベルから分析を行っている。結果として、どのような誘い会話であっても、①発話②談話③言語行動の3つのレベルすべてを充足していると述べている。そして、勧誘の発話や承諾の発話が明示的には表れていないが、勧誘としての会話が成り立つものがあることを指摘し、勧誘の発話だけに注目するのではなく、勧誘という言語行動の構造が重要であることを主張している。そして、勧誘の文型が誘い会話において必然的なものでない理由として、勧誘者と被勧誘者に勧誘の談話構造の知識が共有されていることを挙げている。

一方、日本語学習者の誘い会話での発話の特徴を分析した研究は、長谷川（2002）と高澤（2004）がある。長谷川（2002）は日本語学習者の誘い会話の発話表現について、勧誘先行語句、いいさしの使用、勧誘³の表現のバリエーションの観点から分析を行った。日本語学習者は都合伺いなどの勧誘先行句を多用する傾向があり、教材の提示内容からの影響の可能性があることを示している。また、勧誘表現を「Aa 相手の意向を直接的に尋ねる」「Ab 相手の意向を間接的に尋ねる」「Ba 勧誘を意向形などで直接的に述べる」「Bb 勧誘が断られた後で将来的な誘いを述べる」の4種類に分け、日本語学習者は「Ba 勧誘を意向形などで直接的に述べる」表現を多用し、日本語教材において提示される文型をそのまま型どおりに用いる例が目立ったという分析結果を提示している。高澤（2004）は学習者が誘い会話で用いる会話展開や待遇表現を分析し、学習者は「最近の話題」を前置きとしてすべてのレベルの相手に用いていることや、母語話者より使用率が低いながらも、相手の反応をみながら話を進めるために言いさしを用い、すべてを語らない話題展開をしているという結果を示している。また、親しい友人を誘う際、学習者は典型的な誘い表現である「マセンカ型」を多用していると指摘している。

日中の誘い会話の対照研究としては、発話表現を研究した黄（2011）と会話展開を分析した黄（2014）がある。黄（2011）では分析結果から、中国語母語話者の共同行

² 本稿の「誘い」と同義である。

³ 本稿の「誘い」と同義である。

為要求の使用頻度が日本語母語話者よりも多いことから中国語母語話者のほうが積極的な誘い方をしていると述べている。中国語母語話者は自分の誘いの意向を述べる表現を多用するのに対して、日本語母語話者は相手の意向を尋ねる表現を多用しているという分析結果が示されている。また、中国語母語話者は必要な情報以外のことを述べず、遠まわしせず、明確に伝える誘い方をするのに対し、日本語母語話者は相手に配慮し、婉曲的に働きかける誘い方をすると分析している。

会話展開を分析した黄（2014）では、分析結果として日本語母語話者は先行部の段階を確実に踏まえながら対人関係を築く会話展開をするのに対して、中国語母語話者は先行部の段階が明確に踏まれない傾向があることを示し、異なる会話展開パターンを用いていることを示唆している。一方、共通点として日本語母語話者、中国語母語話者ともに「誘い」の話段と「情報交換」の話段を基本型の展開パターンとして用いていることを示している。

上記のように日本語誘い会話の構造研究や日本語母語話者同士の誘い会話研究、様々な母語を持つ日本語学習者の誘い会話研究、日中母語話者の誘い会話対照研究はなされているが、一方、日本語母語話者・中国語母語話者・中国語母語日本語学習者三者対照の誘い会話に関する会話展開や発話表現に関する研究はまだ見当たらないようである。しかし、中国語母語日本語学習者の誘い会話展開や発話表現は日本語母語話者とどう異なるのか、母語が学習者に与えている影響は見られるのかの分析は重要であると考えられる。また、黄（2014）では話段の出現回数を分析したものの、一つの会話での話段の出現の順番は扱われておらず、日中母語話者の会話展開に関してさらに分析する余地が残されている。加えて、黄（2011）では「共同行為要求」の発話表現に焦点が当てられ、他の意味公式の発話表現は分析されていないことから、他の意味公式の発話表現についても分析する必要があると考える。

本稿は上記の先行研究の結果や不足している部分を考慮し、中国語母語日本語学習者・中国語母語話者・日本語母語話者の三者を対象に、誘い会話誘い部の会話展開や意味公式別の発話表現について対照分析を行い、どのような共通点や相違点があるのかを明らかにする。以下3節では本稿の研究課題と分析方法について述べる。

3. 研究方法

3.1. 研究課題

本稿は中国語母語日本語学習者・中国語母語話者・日本語母語話者の誘い会話の誘い部における会話展開と発話表現の共通点や相違点を明らかにし、中国語母語日本語学習者の日本語誘い会話習得の助けとなることを目的とし、以下の2つの研究課題を設ける。

研究課題1：誘い会話の誘い部では、どのような会話展開がなされているか。それぞれの会話の会話展開にどのような共通点や相違点があるのか。

研究課題2：誘い会話の誘い部における、発話表現にはどのような特徴があるか。それぞれの会話の発話表現にどのような共通点や相違点があるか。

3.2. データ

本稿は宇佐美洋監修（2005）「日本語学習者よる、日本語・母語対照データベース」のデータを用いて分析を行った。本データベースは国立国語研究所で作成され、「教育現場への応用」や「日本語と母語データの対照研究」、「話し言葉と書き言葉の対照研究」を目的に作成されたものである。本データベースの発話課題は4種類あり、「朗読」「スピーチ」「あらすじありロールプレイ」「あらすじなしロールプレイ」である。

本稿では「あらすじなしロールプレイ」としてデータの収集が行われた、「誘いー断り」場面のデータを分析対象とする。会話数は中国語母語日本語学習者と日本語母語話者の日本語接触場面会話8会話、中国語母語話者同士の中国語会話10会話、日本語母語話者同士の会話の日本語会話8会話である。「誘いー断り」場面のロールプレイでは以下のロールプレイカードが用いられた。

(2) <ロールカードA（誘い）>

あなたは一ヶ月前、新しいアパートに引っ越しました。そこで、来週の土曜日の夕方、新しいアパートに友達を大勢呼んで、パーティーをしようと思っています。友達のひとりのところに行って、パーティーに誘ってください。

<ロールカードB（断り）>

友達があなたのところに来て、パーティーに誘いました。その友達は、一ヶ月前に新しいアパートに引っ越したので、来週の土曜日の夕方、大勢の友達を呼んでパーティーをしようと思っているようです。ところがあなたは、土曜日の夕方は別の用事があります。その友達の誘いを断ってください。

上記のようにロールプレイカードには状況設定のみが書かれており、どのような会話展開にし、どのような発話表現を用いるかは会話参加者に委ねられている。また本稿の接触場面のデータは、日本語学習者の誘いの会話展開と発話表現を分析するため、全て日本語学習者が誘いを行い、母語話者が断りを行ったものである。

会話参加者に関して、中国語母語話者同士の会話は、中国語母語日本語学習者同士が母語の中国語で会話を行ったものである。日本語母語話者同士の会話は出身国が日本である日本語母語話者同士の会話である。

接触場面の中国語母語日本語学習者は、中国国籍で中国在住の日本語学習者である。日本語能力はデータ収集者が指定する発話課題に基づき、何も見ないで三分以上日本語で発話を続ける程度の日本語能力を持っていることが条件とされている。中国語母語日本語学習者の基本データを表 1 に示す。

表 1. 中国語母語日本語学習者の基本データ

ID	出生年	性別	学習開始年	学習期間総計 (月)	SPOT テスト得点	SPOT テスト 正解率
cn051	1986 年	男	2004 年	12	62	95.4%
cn053	1984 年	女	2002 年	不明	63	96.9%
cn055	1984 年	女	1996 年	108	63	96.9%
cn057	1984 年	男	2002 年	31	52	80.0%
cn059	1985 年	女	2003 年	25	65	100.0%
cn061	1984 年	男	2003 年	30	51	78.5%
cn065	1984 年	女	2002 年	不明	56	86.2%
cn069	1984 年	女	2002 年	不明	60	92.3%

3.3.定義

「誘い」について、鄭（2006:182）の定義を援用し、「話し手が、両者にとって利益となると考えるある行為を共に遂行するように聞き手に働きかける発話、または、その過程を含んだ行為」と定義する。また、ここでの「誘いの過程」とは、「誘い手と被誘い手が誘いの成立のために様々な情報のやり取りを行いながら話を進めていくこと」（鄭 2006:182）である。

誘い会話の仕組みとして、武田（2006）は誘い会話を「誘い部」・「誘い応答部」・「勧誘談話終了部」に区分している。本稿の分析対象としている「誘い部」は、武田（2006:25）の「誘い部」の定義を用い、誘いの開始から内容の伝達までを指し、勧誘者による「来てください」等の発話を含む部分とする。

3.4.分析方法

会話展開の分析方法に関して、ザトラウスキー（1993）、黄（2014）、中井（2017）を参考に、分析単位として「話段」を用い、各会話の話段を区切る。本稿では黄（2014:47）、中井（2017:109）の定義を参考に、「挨拶」「状況説明」「条件確認」「情報交換」「都合伺い」「誘い」の話段に区分した。以下に本稿の各話段の定義と例を記す。

表 2.本稿の話段の定義および例

話段名	話段の定義	日本語例	中国語例
挨拶	会話を開始する挨拶を行う段階。	A：はい B：みかちゃん A：あ、あいちゃん B：久しぶり	A：啊，是胖胖啊。 我正要找你呢 B：啊，有事兒嗎？ A：啊，是啊
状況説明	誘うきっかけになった状況を説明する段階。	A：あの一、一ヶ月前に新しいアパートに引っ越したんだよ B：あ、そ一、おめでとう	A：欸，那個，m，告訴妳一個好消息 B：m A：我一個月之前剛剛搬了一個新家 B：是嗎，恭喜妳啊

条件 確認	誘う事柄についてその前提となる条件について尋ねる段階。	A: あのさ俺先月、ち ょうどもう一か 月位前だけど、あ の一、ちょっと引 っ越しをしたじ ゃない? B: うん	A: 我前一個月搬家了 你知道嗎? B: 恭喜恭喜我還真不 知道
情報 交換	日時や場所・参加者など誘いの内容について情報提供や情報要求を行い、誘いの内容に関する情報のやりとりを行う段階。	A: え、あ、ごめん。 えーと、いつ? (笑い) B: えっとねー A: うん B: 今週じゃなくて、 あ、ごめん、来週 の土曜日の A: うん B: 大体五時くらいか ら夕方	A: 那下星六什麼時候 呀 B: 下星六晚上吧。因 為，嗯，晚上可能 大家都有時間
都合 伺い	誘いの日時や場所が適当か確認する段階。	A: <u>来週の土曜日なん だけどどうかな あ?</u> B: え、時間は? A: 時間はね、ティー パーティーだと 思ったから、 <u>お昼 くらいなんだけ ど、どうかな?</u>	A: 嗯，我想下週六晚 上請朋友們到我家 來聚聚。你有沒有 時間呢? B: m, 下週六晚上啊 A: m

誘い	誘いの表現を用いて誘う段階。	A: で、ななみちゃんにも来てほしいんだけど B: うーん A: どうかかな？	A: 欸，小羽我最近搬新家了。這星期六晚上我想開一個聚會。 <u>妳要不要來啊？</u> B: 太好了，有聚會啊
----	----------------	---	---

本稿は各会話の話段の出現順序を分析し、その話段の出現順から会話展開の特徴を分析する。そして、会話の種類ごとの共通点や相違点があるかの比較分析を行う。

続いて、発話表現の分析方法に関して、ザトラウスキー（1993）、黄（2011）、鄭（2009）を参考に、「意味公式」を分析単位とし、各会話の発話に意味公式をつける。本データでは「共同行為要求」「情報要求」「情報提供」「注目表示」「談話表示」「関係づくり」「誘導発話」「気配り発話」の意味公式が見られた。以下は本データで見られた意味公式とその定義および例である。

表 3.本稿の意味公式の定義

意味公式	定義および例	
共同行為要求	定義	「勧誘」等のように、話し手自身も参加する行為への参加を求める発話。（「出てこれる？」、「来れなさそう？」は質問の形式からなるが、「情報要求」と同時に「共同行為要求」でもある。） (ザトラウスキー 1993:67)
	日本語例	ななみちゃんもぜひ来てほしいんだけど
	中国語例	那個妳下個禮拜六晚上上我們家來玩吧。
情報要求	定義	情報の提供を求める発話で、「質問」の類が多い。 (ザトラウスキー 1993:67)
	日本語例	いつ、いつそのパーティーは？

	中国語例	那下星六什麼時候呀？
情報 提供	定義	実質的内容を伝える発話で、客観的事実に関する質問に対する答えを含む。(ザトラウスキー 1993:67)
	日本語例	来週の土曜日に夕方からパーティーをやるの。
	中国語例	這星期六晚上我想開一個聚會。
注目 表示	定義	相手の発話、相手の存在、その場の状況・事物の存在などを認識したことを表明する。「同意要求」に対する応答...を含む。(国立国語研究所, 1987:156) (ザトラウスキー 1993:67-68)
	日本語例	あー、ひろし。
	中国語例	欸，小王。
談話 表示	定義	談話の展開そのものに言及する「接続表現」、「メタ言語的な発話」も含む。 (ザトラウスキー 1993:67)
	日本語例	<u>でね</u> 、来週の土曜日皆でパーティーしようかなと思ってんだけど
	中国語例	<u>所以</u> 我打算，我想開個 party。
関係 づくり	定義	「感謝」「陳謝」「挨拶」等の良い人間関係を作る発話。 (ザトラウスキー 1993:67)
	日本語例	お久しぶり、こんにちは。
	中国語例	嘿，謝謝。
誘導 発話	定義	相手を褒めたり、煽てたりして相手の気持ちをそちらに向けるようにする発話や、相手が話にのってくるように相手にとって魅力的な情報を与える発話。 (鄭 2009:121)
	日本語例	あの一、留学生とかも来るし、皆、あの、一品ずつ持って来るのね。だから結構豪華だと思うよ。

	中国語例	我還準備了好多吃的都是我自己做的。
気配り 発話	定義	1.恐縮の意：恐縮の意を示す。 2.相手の負担の軽減：聞き手の負担を軽くするための条件を述べ、強要しない事を伝える発話。 (鄭 2009:117) ⁴
	日本語例	ちょっと、まー、 <u>急なんだけど</u> 、大衆の土曜日の夕方に考えてんだ。 みずのさんもどう、 <u>空いてたら</u> 。
	中国語例	該当例なし

本稿は意味公式別の発話表現の特徴を分析し、会話の種類ごとに共通点や相違点があるかについて比較分析を行う。また上記の比較分析に加えて、日本語学習者の会話展開と発話表現の用い方に中国語母語話者寄りの現象が見られるかを検討する。

4.分析結果および考察

4.1.会話展開の特徴および比較：研究課題 1

以下では、研究課題 1 「誘い会話の誘い部では、どのような会話展開がなされているか。それぞれの会話の会話展開にどのような共通点や相違点があるのか。」についての分析結果および考察を述べる。本データで見られた主な会話展開の型として①「状況説明」または「条件確認」の後「情報交換」を行う、②「状況説明」または「条件確認」の後「情報交換」を行い、「都合伺い」を行う、③「状況説明」の後に「都合伺い」を行い「情報交換」を行う、④「状況説明」または「条件確認」の後「情報交換」を行い、「誘い」を行うの 4 種類の型が見られた。⁵

⁴ 鄭 (2009:117) では「都合伺い」も「気配り発話」に含まれているが、本稿は「都合伺い」を相手の情報を要求している発話と判断し、「情報要求」の一部とする。また、鄭 (2009:117) では「気配り発話」として「話題予告」を挙げているが、本稿データでは例が見られなかったため、本稿の「気配り発話」の定義に含んでいない。

⁵ 「挨拶」の話段に関して、4 種類の型に共通して会話の初めに挨拶を行っている会話と行っていない会話が見られた。「挨拶」は意味公式の「関係づくり」にも含まれる。会話展開の分析では「挨拶」以降の会話展開の型を重点的に扱い、「挨拶」の有無の特徴に関しては「関係づくり」の分析結果で扱うこととする。

まず、本データで見られた 4 種類の会話展開の例を以下に示す。

表 4. 「①「状況説明」・「条件確認」→「情報交換」」の会話展開例

話者	発話例	話段
A	あのさ俺先月ちょうどもう一か月位前だけど、あの一、ちょっと引っ越しをしたじゃない？	条件確認
B	うん	
A	うん。 でさ、ま一、誰も祝ってくんなかったから、自分でちょっと主催しようと思ってさ。ま一、今度の来週の土曜日あたり皆がもし、あ、空いてればちょっと	情報交換
B	(笑い)	
A	集めて、ま一、ん、鍋でも囲んでっていうか、ま、ちょっと派手にやろうかなと思って一人一人回ってみてるん。まずここへ来てみたんだけど。	
B	あ一、土曜日	誘い応答部
A	うん	
B	あ一、どうぶかあ、どうしよっ	

表 5. 「②「状況説明」・「条件確認」→「情報交換」→「都合伺い」」の会話展開例

話者	発話例	話段
A	あ、あの一、僕は一か月前、新しいアパートに引っ越ししました。	状況説明
B	あ、そうなんだ。おん	
	(省略：アパートと学校の距離についての会話)	
A	う一、あの一、う一、それで僕が来週の土曜日の夕方、あの、友達	情報交換
B	うん	
A	と一緒にパーティーをしましょうと思います	
B	来週	
A	あ一、さとうさんが暇がありますか	都合伺い
B	来週の土曜日は夕方でしょう	誘い応答部

表 6. 「③「状況説明」→「都合伺い」→「情報交換」」の会話展開例

話者	発話例	話段
A	私は新しいアパートに引っ越しました	状況説明
B	あ、引っ越したんだ	
A	はいそうです	
	(省略：いつ引っ越したのかについての会話)	
A	私は、来週の土曜日は、あの一、あ、さとうさん暇ですか	都合伺い
B	来週の土曜日、来週の土曜日は	
A	暇	
B	夕方から用事があるから	
A	えー、そうですか、私は夕方	情報交換
B	けど	
A	新しい、あの、アパートに、あの、友達と一緒にパーティーをしてという	
B	えー、夕方だったらいけないなあ	誘い応答部

表 7. 「④「状況説明」・「条件確認」→「情報交換」→「誘い」」の会話展開例

話者	発話例	話段
A	私一か月前に新しいアパートに引っ越したの知ってる？	状況説明
B	うん、知ってる	情報交換
A	でね、	
B	うん	
A	来週の土曜日、えー、皆でパーティーしようかなと思ってんだけど	
B	あ、引っ越し祝の	
A	そーそーそー、で、	
B	うん	
A	ひ、結構広いから、友達沢山呼ぼうかなと思ってて、	
B	うん	

A	みかちゃんも、暇だったら来ない？	誘い
B	あー、どうしよう	誘い 応答部

続いて、表 8 において 4 種類の会話展開の型と各会話の例数を示す。

表 8. 会話展開の型とその例数

	会話展開パターン	例数		
		JP-JP	CN-CN	CNJPL-JP
①	(「挨拶」) → 「状況説明」・「条件確認」 → 「情報交換」	3	2	2
②	(「挨拶」) → 「状況説明」・「条件確認」 → 「情報交換」 → 「都合伺い」	1	2	3
③	(「挨拶」) → 「状況説明」 → 「都合伺い」 → 「情報交換」	0	1	1
④	(「挨拶」) → 「状況説明」・「条件確認」 → 「情報交換」 → 「誘い」	3	5	1
⑤	上記以外の会話展開パターン	1 ⁶	0	1 ⁷

CN-CN、JP-JP の会話で「④（「挨拶」）→「状況説明」・「条件確認」→「情報交換」→「誘い」」の型の使用が一番多く、例外を除いて「③（「挨拶」）→「状況説明」→「都合伺い」→「情報交換」」の型の使用が一番少ない。このことから会話展開に関して CN-CN、JP-JP とは似た傾向あることがわかる。接触場面の会話展開型は、「②（「挨拶」）→「状況説明」・「条件確認」→「情報交換」→「都合伺い」」の型が一番多く用いられており、同じく「都合伺い」の話段を用いる「③（「挨拶」）→「状況説明」→「都合伺い」→「情報交換」」の型を含めると、「都合伺い」の話段を用いている会話展開は半数を占める。これは CN-CN、JP-JP の母語話者同士の会

⁶ 「あいさつ」→「都合伺い」→「条件確認」→「情報交換」→「誘い」→「情報交換」の会話展開であった。

⁷ 「あいさつ」→「情報交換」→「状況説明」→「誘い」→「情報交換」の会話展開であった。

話と異なる特徴である。日本語学習者の「都合伺い」の多用に関して長谷川（2002）は、日本語学習者の勧誘先行句の過半数の例が「都合伺い」であったことについて、教材に示される例に起因する転移の可能性を指摘している。本稿の分析結果も学習者が「都合伺い」を行う会話展開を多く用いており、長谷川（2002）の分析結果を支持している。「都合伺い」を用いた会話展開の型を最も多く用いる傾向は CN-CN 会話の会話展開の特徴と異なることから長谷川（2002）が指摘しているように教材の例の影響の可能性が窺われる。

加えて、CN-CN、JP-JP、CNJPL-JP の会話展開の共通点として、JP-JP では 7 例、CN-CN では 10 例、CNJPL-JP では 7 例と、ほとんどの例がまず「状況説明」または「条件確認」を行ってから会話を展開させている。また、「誘い」の話段無しで誘い会話の誘い部として成り立っている会話は JP-JP4 例、CN-CN5 例、CNJPL-JP6 例ある。この結果は、鈴木（2003）で指摘されている誘いの発話が明示的には表れていなくとも誘い会話が成り立つということが JP-JP、CN-CN、CNJPL-JP 会話にも当てはまることを示している。本稿データの誘い会話の内容は「予め予定が決まっている誘い」会話であり、鈴木（2003）が述べているように誘い手と被誘い手の間に誘いの談話構造の知識が共有されているため、「誘い」の話段無しでも誘い会話の誘い部となり得たと考えられる。

4.2.発話表現の特徴および比較：研究課題 2

以下では、研究課題 2「誘い会話の誘い部における、発話表現にはどのような特徴があるか。それぞれの会話の発話表現にどのような共通点や相違点があるか。」についての分析結果および考察を述べる。本データから「共同行為要求」「情報要求」「情報提供」「注目表示」「談話表示」「関係づくり」「誘導発話」「気配り発話」の意味公式が見られ、以下にそれぞれの意味公式別に分析結果と考察を示す。

A) 共同行為要求

本データの共同行為要求の例を長谷川（2002）の分類、「Aa 相手の意向を直接的に尋ねる」「Ab 相手の意向を間接的に尋ねる」「Ba 勧誘を意向形などで直接的に述

べる」8に基づいて分類した。表 9 に各会話における共同行為要求の発話表現とその例数を示す。カギ括弧内は発話表現であり、丸括弧内の数字はその発話表現の例数を示す。

表 9. 共同行為要求の発話表現とその例数

種類	相手の意向を直接的に尋ねる	相手の意向を間接的に尋ねる	勧誘を意向形などで直接的に述べる
JP-JP	「どうかな・どう？」(5) 「来ない？」(1)	(0)	「来てほしいんだけど」 (1)
CN-CN	「妳要不要來啊」(1) 「(状況説明)你觉得呢？」 (1)	(0)	「我們家來玩吧」(2) 「我想讓你過來玩兒」 (1)
CNJPL-JP	「どう思いますか？」(1) 「来てくれる？」(2)	(0)	(0)

上記の結果から、日本語母語話者と日本語学習者は「相手の意向を直接的に尋ねる」発話表現で共同行為要求を行う傾向が見られ、CN-CN の中国語母語話者は「勧誘を意向形などで直接的に述べる」発話表現で共同行為要求を行う傾向があることが分かり、中国語母語日本語学習者の日本語の共同行為要求の発話表現は日本語母語話者寄りであると読み取れる。また、日中会話における共同行為要求の発話表現方法の比較結果に関しては、黄（2011）の分析結果⁹と同様の傾向の結果となった。

B) 情報要求

CN-CN の情報要求の特徴として、会話の始めに被誘い手が「話しかけられた理由を尋ねる」情報要求が多く見られることがある。会話の始めに被誘い手は「有什麼事

⁸ 「Bb 勧誘が断られた後で将来的な誘いを述べる」は誘い部の発話ではなく、本稿の分析対象としないため除く。

⁹ 黄（2011）では、日本語母語話者は「相手の意向を直接的に尋ねる」傾向があるのに対し、中国語母語話者は「自分の意向を述べる」傾向があるという分析結果を示している。

嗎？」と言い、誘い手にすぐにメインピックへ入るよう促す傾向が見られた。JP-JP でも「なに」、「どうしたの」と似た表現を用いて話しかけられた理由を尋ねているが、CN-CN の使用数よりも少ない。また、接触場面では被誘い手の日本語母語話者から「話しかけられた理由を尋ねる」例はみられない。このように、CN-CN では被誘い手が会話のはじめに話しかけられた理由を尋ね、誘い手にメインピックを話すよう促す傾向があるのに対し、日本語母語話者は被誘い手からは積極的にメインピックを話すよう促すことは少ないことがわかる。

続いて、情報要求の内容に関して、3種類の会話で共通して最も多く情報要求の際に尋ねられた内容は「都合伺い」であった。「都合伺い」をする際に用いられた発話表現は表 10 のとおりである。

表 10.都合伺いの発話表現例

種類	発話表現
JP-JP	どう、空いてる？
	来週の土曜日なんだけどどうかな？
	お昼くらいからなんだけど、どうかな
	土曜日なんだけど、え、暇？
CN-CN	你有沒有時間哪？
	要不然你什麼時候有時間？
	有時間來嗎？
CNJPL-JP	来週の土曜日は、さとうさん暇ですか？
	じゃあ、さとうさんその日は暇ですか？
	さとうさんが暇がありますか？
	空いてますかあ？

CN-CN と JP-JP の発話表現を比較すると、中国語母語話者は「時間があるか」という表現を用いているのに対し、日本語母語話者は「どう・どうかな」と、内容は時間の有無を聞いているが、直接的な表現を用いず、間接的な尋ね方をしている。

CNJPL-JP において、本データから日本語学習者が「暇ですか・暇がありますか」という表現を用いた例が4例中3例あった。一方、日本語母語話者が「暇」を用いた例は1例だけである。「暇ですか」と同様に「暇」を用いた都合伺いの表現であっても、「お暇ですか？」は形容詞の敬語表現を用いていることから、聞き手に失礼であると受け取られる可能性は低い。一方、待遇表現を用いていない「暇ですか」を用いて尋ねることは、聞き手が失礼であると受け取る場合があるため、「都合伺い」の際にできるだけ避けたほうが良い表現であると考えられる。

中国語母語の日本語学習者が都合伺いとして「暇ですか？」という発話表現を用いる要因の一つとして、初級教科書が影響を与えている可能性を考えることができる。初級の教科書では形容詞の導入として「暇」という形容詞と形容詞の疑問文が例文や練習問題で扱われる。以下の表11・表12では、林（2011）の台湾の初級教科書の一覧表を参考に、台湾で用いられている初級教科書の数冊を調べ、「暇ですか」が例文・練習問題で扱われている教科書とその例、「暇」という単語は出てくるが、疑問文では出てこない教科書とその例を示す。

表 11. 「暇ですか」が扱われている教科書

書名	出版年	制作地	例文・練習問題
大家的日本語 初級I改訂版	2015	日本	あした 暇ですか。 —いいえ、忙しいです。
新文化 日本語 初級 3	2003	日本	今夜、暇？ 今夜、暇ですか？
來學日本語 初級 1	2005	日本	昨日は暇でしたか？ —はい、暇でした。
e 世代 日本語 (1)	2001	台湾	きのうは暇でしたか。 —はい、暇でした。 —いいえ、暇ではありませんでした。
日本語	2001	台湾	A：土曜日、暇？

GOGOGO2			B：うん、別に予定はないけど・・・。
---------	--	--	--------------------

表 12. 「暇」という単語は出てくるが、疑問文ではない教科書

書名	出版年	制作地	例文・練習問題
生活日本語 教室初級 2	2013	日本	ひまな日は なにを しますか。
ドコデモ 日本語	2016	台湾	先週の日曜日はどうでしたか。 —暇でした。
加油！ 日本語 4	2009	台湾	土曜日の夜、時間がありますか。 —（省略）僕は暇です。

上記表 11・表 12 より、初級教科書で「暇」という単語を教えている教科書は少ないことが分かる。加えて、形容詞の疑問文の例として「暇ですか？」が扱われ、初級段階で「都合伺い」の機能がある表現として「暇ですか？」を学習者は学んでいることが窺われる。「暇ですか？」を都合伺いとして用いることは、丁寧さに欠ける部分があり、語用論的適切さが高くない表現であるように思える。日本語学習者は文法的に正しい表現だけではなく、語用論的にも正しい表現を習得する必要があるため、初級で「暇ですか？」の表現を扱う際には、学習者に対して丁寧度の説明も必要ではないかと考えられる。

C) 情報提供

自分の状況に関する情報提供の発話表現として、例えば「ちょうどね一ヶ月前に新しいアパートに引っ越したの。」など叙述文を用いて情報提供する発話表現は3種類の会話に現れ、差異は見られなかった。一方、「ちょっと引っ越したじゃない？」という疑問文を用いて情報提供する発話表現に差異が見られた。JP-JP の日本語母語話者は引っ越したことを「疑問文」で伝え、相手との共通知識を確かめる例が4例あったが、CN-CN の中国語母語話者、CNJPL-JP の日本語学習者はそれぞれ1例であった。このことから、徐（2007:230）が指摘しているように、JP-JP は「お互いの理解を常に確認し合い、共感づくりに配慮した展開がなされている」という傾向が窺われる。

また、情報提供の発話表現として「言いさし」が見られた。日本語の依頼会話において、言いさし文は聞き手への配慮を表すストラテジーであるとされている（柏崎 1992、熊井 1992、長谷川 2002）。本データでは、情報提供時に CN-CN 中国語母語話者は言いさし文を用いていないが、JP-JP 日本語母語話者の例では 6 例、CNJPL-JP 日本語学習者の例では 3 例が言いさし文を用いている。この結果は高澤（2004）の、学習者は母語話者より使用率が低いながらも、相手の反応をみながら話を進めるために言いさしを用い、すべてを語らない話題展開をしているという分析結果と同様の結果を示した。中国語会話では使われていなかった言いさし文が、日本語の接触場面において中国語母語日本語学習者によって用いられていることから、日本語学習者が日本語の発話表現、聞き手への配慮を表すストラテジーを習得することができているのではないかと推測される。

D) 注目表示

JP-JP、CN-CN、CNJPL-JP 会話の「注目表示」の特徴は共通しており、ほとんどの会話で相手の名前を呼んでいる。また、本稿の「注目表示」の例すべてが会話の始めに現れている。このことから、3 種類のどの会話でも会話相手の名前を呼ぶことで親しみを示そうとしていることが窺われる。

E) 談話表示

JP-JP での談話表示は 18 例、CN-CN では 6 例、CNJPL-JP 会話では 4 例であった。このことから、日本語母語話者は中国語母語話者や中国語母語日本語学習者より談話表示を多く用いる傾向が見られた。本稿はザトラウスキー（1993）の談話表示の分類をもとに、本データの談話表示を分類した。以下表 13 では、用いられた談話表示の例とその例数を示す。談話表示例のあとの丸括弧内の数字は、その談話表示の例数を表す。

表 13.本稿の談話表示の例とその使用数

種類	「談話表示」例・例数	
JP-JP	順接型	でさ (1)、でね (4)、それはね (1)、そいで (1)
	添加類	で (5)

	轉換型	あのさ (4)、早速なんだけどさあ (1)、実はね (1)
CN-CN	順接型	所以 (1)
	添加型	然後 (1)
	轉換型	那(1)、跟你說(1)、告訴你一個好消息(1)、 我跟你說一個好消息(1)
CNJPL-JP	順接型	そこで (1)、それで (2)
	添加類	あと (1)

JP-JP では、「順接型」・「添加型」・「轉換型」の使用率に大きな差は見られない。CN-CN では、「轉換型」の談話表示の使用率が他の談話表示よりも高い。CNJPL-JP では「順接型」を主に用い、「轉換型」は見られなかった。本データにおいて学習者は前後の文の順接関係を述べる際には、談話表示を用いているが、話題を轉換する際には談話表示を用いていない。「轉換型」の談話表示は、新しい話題に入ったり、話題を変えたりする場合に用いられ、聞き手に話題が変わることを知らせる役割がある。談話表示がない場合、相手は会話の内容から話題が変わっていることを推測しなければならない、聞き手が話題が変わったことを理解できない場合、唐突性を生む可能性がある。このことから、「轉換型」の談話表示の有無がコミュニケーションにとって必要なものであることを会話授業で例として取り上げ、理解させるといいと考える。

F) 関係づくり

3種類の会話で「関係づくり」としては、CN-CN の感謝を述べる2例以外、すべてが「挨拶」の例であった。「関係づくり」の「挨拶」の例は JP-JP は9例、CN-CN は2例、CNJPL-JP は14例であった。CN-CN では挨拶をすることなくメインピックに入る例が少なくなかったため、「関係づくり」の「挨拶」の例は JP-JP、CNJPL-JP に比べて少なかった。一方、接触場面において学習者はすぐにメインピックに入るのではなく、母語話者の挨拶に挨拶を返している。このことから、日本語学習者は母語と異なる会話の開始方法でも、対応することができると考えられ、挨拶を返すことで相手との親近感を示そうとしていることが窺える。

G) 誘導発話

「誘導発話」は JP-JP で 1 例、CN-CN で 3 例見られた。発話表現としては、「引越しパーティーの食事が豪華であること」や、「たくさんの食べ物を準備したことを伝えるもの」、「パーティーが楽しいものであることを伝えるもの」であり、日本語会話と中国語会話に大きな差異は見られなかった。学習者の発話で誘導発話の例は見られなかったが、日本語母語話者の使用数も少なく、誘い会話において必須の発話ではないと考えられる。

H) 気配り発話

JP-JP においてのみ「気配り発話」の例が見られた。よって、本分析結果は黄 (2011) の中国語母語話者より日本語母語話者の方が気配り発話を多用する傾向があるという分析結果を支持するものである。JP-JP では「空いてたら」、「暇だったら」、「もし空いてれば」、「ちょっと急なんだけど」といった気配り発話がいられ、計 4 例見られた。

日本語学習者の会話において気配り発話の例が見られなかったが、黄 (2011:151) では日本語母語話者は「相手への心理的負担を削減し、直接性や唐突性を避ける」誘い方をすると述べられており、日本語の誘い会話において気配り発話を用いることができないと、被誘い手は誘い手が直接的で無理強いをする誘い方をしていると感じる恐れもあるため、「気配り発話」は中国語母語日本語学習者に誘い会話を教える際の注意点の一つであると考えられる。

5.まとめと今後の課題

以下に本稿分析のまとめを示す。本データでは以下の 4 種類の主な会話展開の型が見られた。

- (3) ① (「挨拶」) → 「状況説明」・「条件確認」 → 「情報交換」
- ② (「挨拶」) → 「状況説明」・「条件確認」 → 「情報交換」 → 「都合伺い」
- ③ (「挨拶」) → 「状況説明」 → 「都合伺い」 → 「情報交換」
- ④ (「挨拶」) → 「状況説明」・「条件確認」 → 「情報交換」 → 「誘い」

黄 (2014) では、すべての会話でどの話段が何回用いられているかという観点から日中の誘い会話の会話展開を分析していたが、本稿ではデータのそれぞれの会話の中

でどのような順番で話段が現れるのかについての分析を行った。このことにより、誘い会話の始まりから誘い部の終了までどのような会話展開がされているのかを、より具体的に把握することができた。

加えて、JP・CN・CNJPLの会話展開の共通した特徴としては、まず「状況の説明」または「条件の確認」を行ってから会話を展開させる傾向がみられた。また、必ずしも典型的な誘い表現を用いる「誘いの話段」があるわけではなく、「状況説明」や「条件確認」「情報交換」「都合伺い」を行うだけで誘い会話が成立していた。

発話表現に関して、本データの誘い部で見られた意味公式は「共同行為要求」「情報要求」「情報提供」「注目表示」「談話表示」「関係づくり」「誘導発話」「気配り発話」であり、「関係づくり」と「注目表示」以外の意味公式で、JP・CN・CNJPLの発話表現の特徴に相違が見られた。また分析結果から、CNJPLに日本語誘い会話の指導をする際、特に注意が必要な点として以下の三点を示した。

- (4) i. 「情報要求」の「都合伺い」に関して、「暇ですか？」という都合伺いの表現は待遇表現ではないため失礼に思われる場合がある。このことから、この表現を導入する際には、文型を教えるだけでなく、丁寧度に関する注意を促す必要がある。
- ii. 「談話表示」に関して、CNJPLは「転換型」を用いていなかったことから、授業において「転換型」の談話表示の有無がコミュニケーションにとって必要なものであることを例を用いて取り上げ、理解させる必要がある。
- iii. 「気配り発話」に関して、CNJPLの会話で「気配り発話」の例が見られなかった。このことから、学習者が日本語会話で相手への心理的負担を削減し、直接性や唐突性を避ける誘い方を行うことができるようになるために、誘い会話を教える際には「気配り発話」についても教える必要がある。

今後の課題として、さらに多くのデータを集め、中国語母語日本語学習者の誘い会話の母語の影響や日本語の習得についてさらに検証する必要がある。また、誘い会話の会話展開と発話表現は、会話参加者の親疎関係とも関わりがある可能性があり、ビジネス会話や友人同士会話など親疎関係を考慮した場面別の誘い会話の会話展開や発話表現も分析する必要があるように考えられる。そして、会話展開や発話表現の会

話構造的な分析に加えて、どうしてこの表現を用いたのか、会話中に違和感を感じたかなど、会話の語用論的背景を深く考察するため、会話の後に会話参加者にフォローアップ・インタビューを行う質的研究を行うことができる。これらの分析を行うことで誘い会話についてより深く理解することができ、中国語母語の日本語学習者が誘い会話を学ぶ上でより豊富な研究成果を提供することができるようになると思う。

参考文献

- 柏崎秀子 (1992) 「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に—」『日本語教育』79, 53-63.
- 熊井浩子 (1992) 「留学生にみられる談話行動上の問題点とその背景」『日本語学』11(13), 72-80.
- 黄明淑 (2011) 「「誘い」表現における日中対照研究—「共同行為要求」に着目して」『日本語/日本語教育研究 web 版』2, 137-154.
- 黄明淑 (2014) 「話題の切り出しから「誘い」の意思決定に至るまでの一連の言語行動—中国語母語話者と日本語母語話者の比較—」『人文科学研究』10, 41-55.
- 国立国語研究所 (1987) 『談話行動の諸相—座談資料の分析—』三省堂.
- ザトラウスキー, ポリー (1993) 『日本語の談話の構造—勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版.
- 徐孟鈴 (2007) 「依頼会話【先行部】の考察—日本語母語場面、台湾人母語場面、日台接触場面のロールプレイを比較して」『言葉と文化』8, 219-238.
- 鄭在恩 (2009) 「日韓の勧誘ストラテジーについて」『言葉と文化』10, 113-132.
- 鄭榮美 (2006) 「友人間で行われる『誘い』の日韓対照研究—『誘い』におけるストラテジーを中心に—」宇佐美まゆみ編『自然会話分析への言語社会心理学的アプローチ』(言語情報学研究報告 13) (pp. 181-202) 東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」.
- 鈴木睦 (2003) 「コミュニケーションからみた勧誘のしくみ—日本語教育の視点から」『社会言語科学』6(1), 112-121.
- 高澤信子 (2004) 「「誘い表現」における待遇表現指導について—先生・先輩・友人を

誘う場合」『AJALT 日本語研究誌』2, .52-68.

武田加奈子（2006）「接触場面における勧誘談話管理」千葉大学大学院博士論文（未公刊）.

筒井佐代（2002）「会話の構造分析と会話教育」『日本語・日本文化研究』12, 9-21.

筒井佐代（2012）『雑談の構造分析』くろしお出版.

中井陽子（2017）「誘いの会話の構造展開における駆け引きの分析—日本語母語話者同士の断りのロールプレイとフォローアップ・インタビューをもとに—」『東京外国語大学論集』95, 105-125.

長谷川哲子（2002）「勧誘の談話における日本語学習者の発話の特徴」『言語文化研究』14(3), .215-224.

山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現 日本語語用論入門』明治書院.

林玉恵（2011）「台湾で使用されている日本語初級教科書の種類とその特徴」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』8, 117-132.

コーパス

宇佐美洋監修（2005）「日本語学習者による、日本語・母語対照データベース」国立国語研究所日本語教育センター, <https://db3.ninjal.ac.jp/contr-db/>>2018 年 10 月 15 日アクセス.